

平成 30 年 元旦 みなさまつつがなく新年をお迎えに事と存じます！



荒川土手にある民間空港（ホンダエアポート）の初日の出です。

昨年、12月9日おかげさまをもちまして母の「大祥忌」の供養並びに仏壇、位牌の開眼供養の儀滞りなく済ませ、桶川において初めての仏壇新年を迎えることができました。



だけですでしょうか？

改めて藤澤さん、奥様、ご子息、佐藤さん、渡邊さんに感謝、感謝……申し上げます。

日を追うごとに「スーパー楢円」の正面素顔、我が子のような「愛らしさ」、構想を見事実現していただきこの上なく感服いたしました。

既成の価値観に妥協することなく、納得ずくで仏壇、位牌を作りたいと思う私と同じような「性分」の方に、一筆したため貴社 HP の片隅に掲載させていただくことができましたら望外の幸せです。

タイトルは「間違いだらけの仏壇選び」から「120%満足できる仏壇づくり」の記録を藤澤社長の御指南を交え時系列的にこの2年間を追ってみたいと思います。個人情報をオープンにする部分としない部分の仕分けが、未了です。HPに掲載するかどうかも含めて見ていただいた感想及びご意見をいた

■間違いだらけの仏壇選び■

平成27年12月母が89歳で亡くなり、父との合名による位牌と新たに仏壇を作ることとしました。新宿モノリスビルにおける臨時の仏壇展示会場、浅草の仏壇街を見て回りましたが、すべての仏壇が黒檀仕上げ、値段に関わりなく合板ベニアの裏板、価格が高くなると豪華な装飾仕上げの仏壇ばかりが目につきました。

インターネット上で郡山や徳島などの全国の仏壇制作地の店舗を検索、その中で個性的な仏壇づくりをモットーとしている「飯山 藤澤仏壇」の存在を知り、早速、平成27年3月12日（土）訪ねました。アポイントなしの訪問にもかかわらず、社長不在でお忙しい中、奥様の案内で、作業している場所及び完成品の保管場所見せていただきました。藤沢仏壇の他、何店舗かの飯山の仏壇店も見て回りましたが、金ぴかの装飾と黒檀や紫檀で仕上げた海外生産の仏壇が主流でしたので、既成概念を超えた「藤澤仏壇」での仏壇づくりに意を強くして帰ってきました。

4月13日、川越の「まるひろ」における物産展で、口ひげがよく似合う人懐っこい社長の藤沢さんと初めてお会いできました。その後、6月10日（金）、あらためて飯山まで出かけ、藤澤仏壇のポリシーを伺いました。正直言って、私も含め初めて仏壇を作ろうとする人は、既成概念にとらわれた 間違いだらけの仏壇選び、に拘束されていると思いました。

最も感銘した点は、仏壇が食器棚やタンスと同じように日常生活のツール(家具や道具)と同じだという考え＝藤澤仏壇のポリシーです。黒檀の仏壇を悪く言うつもりはありません。しかし、死者を弔う黒い収納庫、できればない方がいい！みなさま、そうは思っていないませんか？仕方がないから黒い仏壇を設置する。私は、藤澤社長と出会う以前、率直に言ってそういう思い込みが大変に強うございました。

渋谷での物産展も含め藤澤社長のお話を聞くこと10回有余、講義料だけでかなりの対価です。2年間の前半は、位牌のデザインに四苦八苦し、ようやく位牌の概要デザインが定まりました（比較検討一覧 別紙記述中）。次に位牌が納まる「仏壇」の造形は、宗派の菩提寺の須弥壇を訪ねても、図案化の参考になる「ネタ」は何も得られず、悶々とした日々が相当期間過ぎました。（発想の転換 別紙記述中）

紆余曲折を経、おかげさまで三回忌に仏壇、位牌の開眼供養を行い、12月10日、桶川に設置して毎日、焼香しておりますが、足かけ二年間もの時間をかけた待望の「我が家にしかない唯一無二の仏壇」です。特に正面上部と天井、般若波羅の宇宙を造形した「スパー楕円」による曲線美を手でなでながら拝みますと、あらためて心から清められる思いが日ごとに強くなり「120%満足できた仏壇」、いとおしいほどの感慨です。

藤澤仏壇が誇っていい特質を述べておきます。宗教や仏壇に関する基本的な知識がない中で手づくり仏壇を進めていく上で、第一に「時間と手間が必要だということ」を藤澤社長が大切にしていらっしゃる。二つ目に、大量生産による利益追求ではなく、ユーザーの満足度を第一に考えておられる。大変ありがたいことに他なりません。藤澤社長の教示に則って、依頼者の持っている知識や限りある少ない技能をアイデアと

して、藤澤社長にお願いできるよう造形化する「執拗さと根気」(ユーザーの心構え別紙記述中)があれば、「120%満足できた仏壇」が手元に届くと確信しています。

どうすれば100%ではなく120%もの満足が得られるか?以下、藤澤社長の秘訣を紐解いてみましょう!

■ [120%満足できる仏壇づくり]のプロセス ■

【あえて言えば……】

ほとんどの方が仏壇づくりは、初めての体験で、おそらく複数回作られる方は少ないと思われます。しかも一生に一度あるかないかの買い物、この次がないわけですから、失敗はしたくないし、満足感の得られる仏壇を手にしたい思いは、誰しも同じ境遇と言ってよいでしょう。慎重の上にも慎重に事を進めたいのですが、なにをどのように決めていくか、その道筋が「ガイダンスやフローチャート」によってユーザーを誘導してもらえば、助かるのではないかと?

また、原案を創るのは、ユーザー、その構想を具体的な寸法、形状、構造などに図化するのは、仏壇を製作する側の仕事だというように、「役割」が明確になっていると、分かりやすいと思います。

実際は、ユーザーの原案が、そのまま位牌や仏壇の造形できるかということそうではありません。あまり「強すぎる思い」は所詮、構想止まりということにもなりかねません。形状寸法などの制約から実現できない場合、「どうしても」と無理をお願いすると矛盾が露出して、せっかくの個性ある手づくり仏壇がのぞんだ理想とかけ離れることにもなります。ユーザーの心構えとして、作る側が難儀する場面も想定した「妥協案」も含めておく必要があるのです。お互いの信頼関係を構築するためにもユーザーと仏壇製作者の「話し合いのキャッチボール」は、手づくり仏壇成功の鍵です。

【予備の基礎知識】

私の経験から言って、

まず、購入者に必要な「基礎的知識」を習得、学ぶことから始めなくてはなりません。例えば、須弥山、須弥壇とは、なにか?について知る必要があるのです。仏壇は、飾り棚や保管棚に設置してはなりません。もっともキリスト教では、位牌も仏壇もないそうですが。「仏教とは?」、自分の家の「宗派とその特徴は?」ぐらい把握しておく必要があります。参考に、自分の家の祖籍調べと、家系の累代を把握しておく、なお良いでしょう。

家訓は、家風は、屋号は、家屋の立地環境や歴史は、などなど置かれている環境を明らかにしておく、具体的な「造形デザインの要因」が増えていくため、選択肢が多岐多様になり、選びやすくなると思いますね。当家は、両親が初代ですから、共通の戒名の文字を「具象化する」「図化する」作業の選択肢が複数用意できませんでした。

……以下、構成を含め作業中です。追って見ていただきたいと思います。☆☆☆☆